

平成24年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	観光行事開催委託事業						担当部	市民産業部							
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	商工観光課							
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降			担当係	まちづくり観光係						
	総合計画 分野別計画	主目的	6 産業振興		30 観光		1 観光資源を活用する									
		副目的	30-1													
	予算区分	款	7		項	1		目	3		大	3		中	1	
	根拠法令・個別計画	愛知県観光振興基本計画														
	実施・運営方法 ※費用合計に占める 経費の内訳(割合)	直接実施・ 運営	25 %			委託	75 %			助成	0 %					
	目的 (対象をどの様な 状態にするのか)	歴史的価値を持つ小牧山を活用した観光事業を委託実施することにより、市民及び来訪者に対し小牧の魅力アピールし、観光の振興を図る。														
	内容 (手段)	<p>四季折々の小牧山の良さをPRできるような、歴史と文化の調和のとれた観光事業の開催を委託した。委託先:小牧市観光協会</p> <p>○平成23年度実施内容</p> <p>・春「さくらまつり」 1200本の桜の名所を楽しんでいただけるような桜まつりを開催した。 内容: 会場装飾(夜間ライトアップ用の提灯・ぼんぼり、看板等の設置)、お茶会、写生大会や写真コンクール等を実施した。 平成23年度実績: 来場者数カウントなし(平成23年度は、平成23年3月11日に起きた東北大地震により中止。) 事業費 4,184千円 (前期分:撤去費等 122千円 後期分:平成24年度準備費用 4,062千円)</p> <p>・秋「お月見まつり」 中秋の名月の小牧山を舞台にしたお月見まつりを開催した。 内容: 信長が好んだといわれる「薪能」(薪能実行委員会主催)や、小牧山をランドマークとしてPR発信することを目的として開催する「小牧山ランドマークフェスタ」(小牧青年会議所)と協働開催し、観月会や月見茶会、月見汁の配布等を実施した。 平成23年度実績: 来場者数 25,000人 事業費3,494千円</p> <p>・冬「初日の出を拝む集い」 濃尾平野に孤高する小牧山山頂において、初日の出を拝む集いを開催した。 内容: 小牧市歴史館(小牧城)の特別開館・お汁粉や来場記念絵馬の配布等を実施した。 平成23年度実績: 来場者数 2,000人 事業費266千円</p> <p>市職員は委託契約事務を行ったほか、観光協会事務局として、事業実施した。</p>														
受益者負担	無															

		単位	H21決算額	H22決算額	H23決算額	H24予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	10,390	9,402	7,945	9,910	
		正職員	従事者数	人	0.10	0.10	0.40	0.40
			人件費	千円	531	531	2,127	2,127
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.28	0.14
			人件費	千円	0	0	574	287
		費用合計		千円	10,921	9,933	10,646	12,324
	対前年比		%		90.9	107.1	115.7	
財源	一般財源		千円	10,921	9,933	10,646	12,324	
	国・県支出金		千円	0	0	0	0	
	その他財源		千円	0	0	0	0	

業	活動指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	イベント開催の回数	回	目標		3	3	3
実績				3	3	2	
		目標					
		実績					
		目標					
		実績					
績	成果指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	来場者数	人	目標	130,000	135,000	135,000	135,000
実績			138,500	130,000	27,000		
		目標					
		実績					

事業の自己評価	平成23年度の実施結果	事業の達成状況	小牧山の魅力を生かした観光事業実施を委託し、実施した。ただし、小牧山さくらまつりについては、東北大震災の影響により中止した。				
		事業実施における課題等	小牧市観光協会へ委託実施しているが、事務局が商工課内にあり、実際の事業実施を商工課職員が行っている。今後、観光協会の組織・体制について強化を図り、市民や企業と連携し事業を進めて行くことが課題である。				
		事業を縮小・廃止したときの影響	今後、観光を推進して行くうえで、本市のシンボルであり、観光資源としての価値も高い小牧山を活用した観光事業の実施が縮小・廃止されれば、盛り上がりつつある市民の観光への意識の高揚が停滞すると考えられる。				
今後の事業の方向性	方向性の判定	拡充					
	判定理由	平成25年度は、小牧山城築城450年にあたり、機運も高まりつつあることや、今後、観光を産業に発展させていくためには、史跡小牧山の活用が最重要であるため。					
	改善案等	観光事業をより魅力的に事業展開するためには、観光協会を中心に、市民・企業との連携が必要となることから、平成24年度より行政組織を変更した。(商工課→商工観光課とし、まちづくり観光係を設置) 観光協会については、平成24年度より、協会内に様々な課題に取り組む分科会を設置し、協会の自立化に向け、支援強化しつつ取り組む。					

二次評価	方向性の判定	判定理由				
	拡充	一次評価のとおり。小牧観光協会の組織・体制の強化が進められている。平成25年度小牧山城築城450周年に向けて事業の拡充が必要であるため。				